

## 広報ただみ診療所

朝日診療所

医師 鷗山 保典



### 「肺がん検診について」

皆さんこんにちは。診療所の鷗山です。私は、東京にいた頃は杉並区に住んでいました。杉並区と言えば、2～3ヵ月前に複数回の肺がん検診で肺がんを見逃された女性のニュースがありました。そこで、今回は肺がん検診について、少しお話をさせていただこうと思います。

なぜ、肺がん検診が必要なのでしょう。その理由として、死亡率が高いこと、早期発見により手術など治療の選択が広がることなどが挙げられます。厚生労働省調べでは、部位別によるがん死亡率は男性で1位、女性で2位と男女ともに上位に位置するほどです。そのため、肺がん検診として日本では胸のレントゲン写真を撮影している自治体、施設が多くあります。でもちょっと待って。先のニュースでもあるように、結局レントゲンを撮っても見逃されるんじゃないかって心配になりますよね。そうなんです。レントゲン写真は肺がんの感度が74%とする報告があり、100人中26人は見逃されることが知られています。せっかく検診を

受けても、およそ1/4の人が肺がんを見逃されてしまうのです。そのため、日本では複数回の検診を行ってもらうことで、見逃される人数を減らそうと努めますが、それでもごく一部の人が取りこぼされてしまうことは事実でもあります。そのごく一部に入らないようにするには、どうしたらよいか…。例えば、米国予防医学作業部会では次のことを推奨しています。

「55～80歳の30pack-year以上の喫煙者で過去15年以内に吸っていた人」に対して、毎年の低線量CTによる肺がんのスクリーニングをするべき。(ここで、pack-yearは1日に吸う煙草の箱数×喫煙年数1日1箱吸うなら30年以上、など。)

肺がんに対してはレントゲンよりもCT検査の方が診断能は高いので、上記に該当する方は1度診療所で相談していただくとよいかもしれません。

スペースに限りがあるので、ここまでになりますが、肺がんについてもっと話を聞きたい場合は、診療所でお気軽に質問、相談してくださいね。

## 地域おこし協力隊として vol.47

只見町観光振興協力隊

たくま

橋本 拓馬



### 「古民家」

9月7日～9日に只見町青少年旅行村いこいの森で町とスノーピーク主催のインバウンド(台湾人)ツアーがありました。

ツアーの内容は1日目に三石神社を散策してから湯ら里で入浴。入浴後はキャンプ場でマトン&会津地鶏バーベキューの振舞いを行いました。

2日目は今回のツアーの目玉である田子倉湖アクティビティーの予定でしたが、雨天中止になり代わりに只見考古館で勾玉作り体験とまほろばで昼食。昼食後はフリータイムになりました。夜はキャンプ場古民家で郷土料理と囲炉裏で焼いたイワナの塩焼きの振舞いを行いました。

3日目は餅つきと汁もち・きなこ・納豆の3種類の餅の振舞いを行いました。

私も旅行村のスタッフとして、キャンプ場の会場設営やバーベキューの準備などに携わりましたが、ツアーに参加した台湾の方たちはとても喜んでいました。特に古民家に感動した人たちが多くみられ、囲炉裏で魚を焼いたり玄関がとても広かったりと台湾にはない日本の伝統家屋に関心を寄せていました。

キャンプ場に古民家があるのはとても珍しいことなので、古民家を活かしたキャンプ場誘客に努めていきたいと思っています。